

ガレキに花を咲かせましょう

ネパール編

アースバック工法による住宅再建プロジェクト



住む場所を失った人々に地震に強いアースバック工法の家を提供しよう！
同じ地震で苦しんだ日本だから出来る支援があるはず！
まずは12月にネパール現地での第一回アースバック工法ワークショップ実施

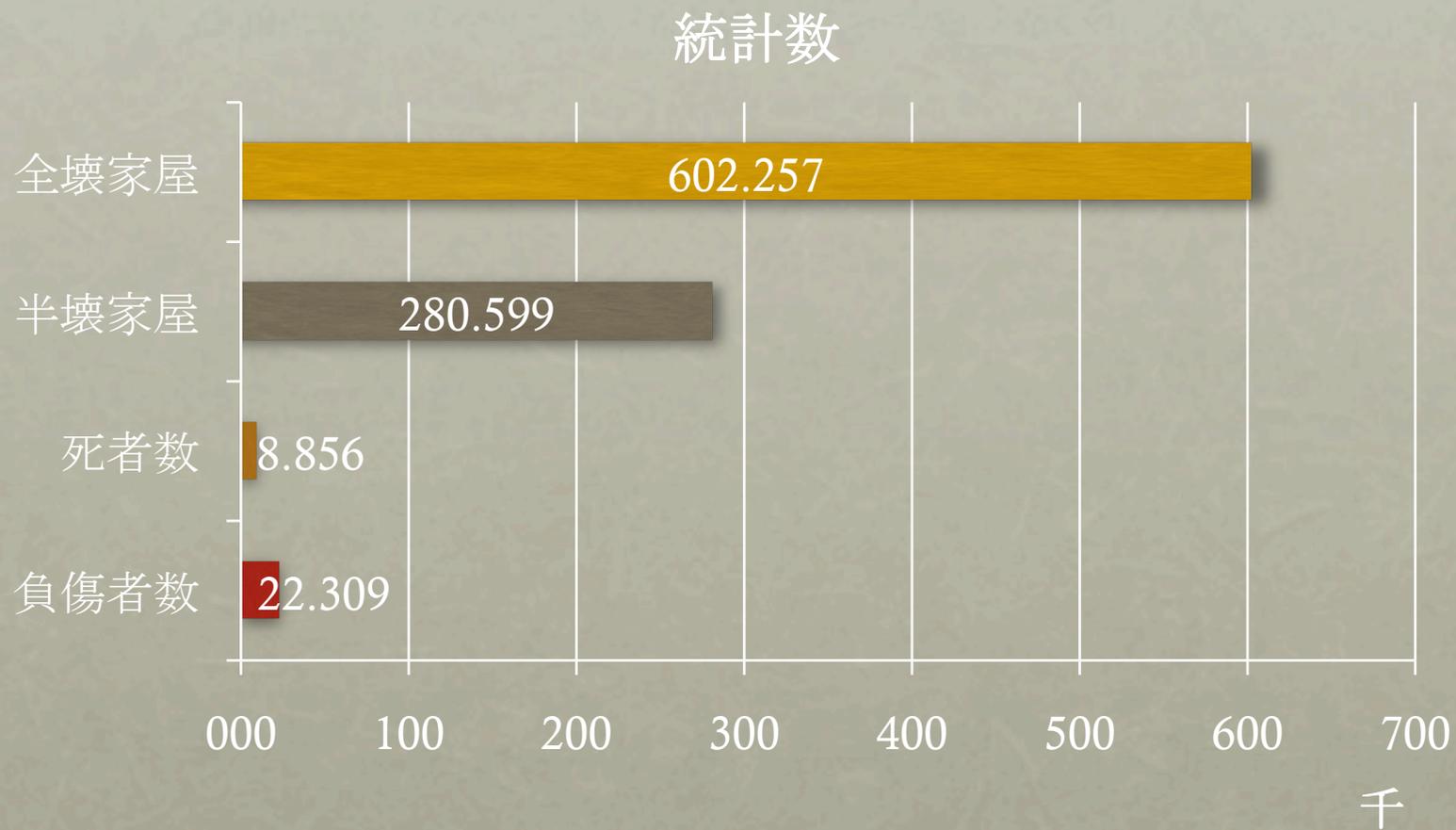
ネパールの現状報告



ネパール地震

- 現地時間：2015年4月25日11時56分発生
- 震源地：ネパールのカトマンズ北西77km付近
- マグニチュード：7.8
- ネパール人口の30%以上800万人以上が被災
- カトマンズ盆地では古い建物の80%以上がダメージ
- 崩壊した村からの避難者が首都で難民化している
- 被災児童の誘拐／人身売買が多発している

被害の統計／6月末現在



山岳民族の難民化



首都カトマンズのボーダにおけるシェルパ族の難民キャンプ

山岳民族の難民化



テントとは名ばかりのシートを張っただけのシェルター

山岳民族の難民化

- 崩壊した山間の村民たちが都心で難民化している
- テント生活が長引く事による弊害が懸念される
健康／心身疲労／雨季に耐えられる構造ではない
- 家族の分断
男は村に残り家畜の世話／女性と子どもが主体難民
- 経済的困窮とスラム化／子どもたちが危ない
- 被災児童の誘拐／人身売買が問題となっている

崩壊した農村／山村に家を

難民化を食い止めるに何が必要か？

- 復興において最優先となるのは、住む為の「家」である
- テントや仮設シェルターではない、永続的に住める「家」
- 余震に脅かされない、耐震性のある「家」
- 短期間に誰もが造作出来る「家」
- 低予算で築ける「家」
- 重機の必要のない「家」

その条件を満たすであろう工法がある

土で作るアースバック工法



アースバック工法

- * アメリカで生まれたアースバック工法
簡単に言えば、軽量なアースバックのチューブに土を詰め、とぐろを巻くように積み重ねる工法である



アースバック工法の利点

- ネパールにおいて地震で古い建物が崩壊した理由は、木枠に生レンガを土で接着しただけの「地震に弱い工法と素材」で建てられていたからである
- アースバックの場合、チューブ状になっている為接合部が無く、崩れない特徴がある
- 素材は基本「土」なので、ネパールで供給できる
- 複雑な設計／施工ではないので、短期のワークショップで工法を身に付けられる
- 仕上がりが見え、ネパールの景観にマッチする

アースバック工法の難点

- 構造上、小さな規模（10帖）で建てるので一戸だと家族の人数によっては狭い
- 建てる時、人手が必要（ワークショップ化すれば工法の拡散に繋がる）
- 雨が降ると工事が出来ない
- 日本で建てる場合は建築法的な問題がある

日本アースバック協会

* 中東で生まれアメリカで育ったアースバック工法の日本協会が和気が現在住んでいる「大分」にあると言うので、日本アースバック協会長の「中野ヒロ」さんに問い合わせた。

彼は和気の住む「臼杵」まで足を運んでくれた。お互い腰を据え、じっくりネパールにおけるアースバックの可能性を確かめ合った。

プロジェクト立ち上げへ

* 12月に日本アースバック協会の会長「中野さん」とネパールへ行き、第一回目の「アースバックによるネパール復興プロジェクト（仮）」のワークショップを実施を約束した。



ネパール復興プロジェクト

* このアースバック工法ワークショップを展開したその次は、アースバックによる家とゲストハウス、レストランなどを連ねた農村部の「オーガニックビレッジ」としての復興を目指したい意向です。



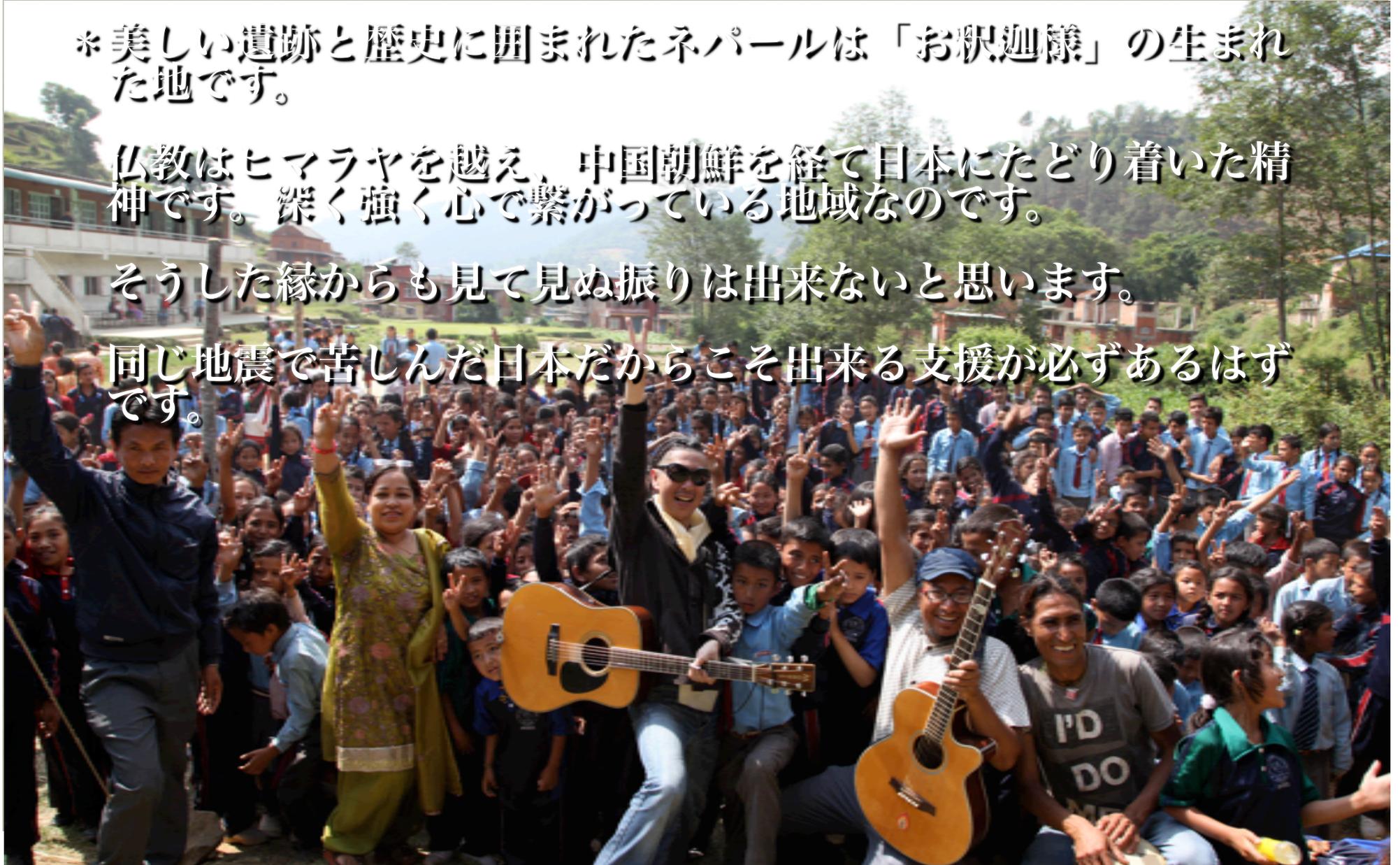
ネパールと日本

*美しい遺跡と歴史に囲まれたネパールは「お釈迦様」の生まれた地です。

仏教はヒマラヤを越え、中国朝鮮を経て日本にたどり着いた精神です。深く強く心で繋がっている地域なのです。

そうした縁からも見て見ぬ振りは出来ないと思います。

同じ地震で苦しんだ日本だからこそ出来る支援が必ずあるはず
です。



ファーストステップ

* 12月、ネパール現地においての第一回「アースバック工法ワークショップ」を開催。

短期ではあるが、ひとりでも多くのネパール人へアースバック工法の技術を根付かせたい。

この模様を撮影し、映像コンテンツ化。明解なストーリーを踏まえ、ネパールでのアースバックによる復興支援の必要性を広く日本中で説いて廻りたい。

以上が12月に実施するプロジェクトのファーストステップ。

プロジェクトの未来

*そして来年、崩壊した山村を復興すべく「アースバックによるオーガニックビレッジとしての再生」へと移行し着手するプランである。

日本で家1軒建てる費用で、1村が救えるかもしれない可能性を秘めています。

そしてこの営みは必ず、良いカタチで日本へフィードバックされるはずです！

12月ワークショップ予算概要

* 12月のアースバックワークショップ予算概要

期間：2週間

和気／中野さん渡航費：300,000円

中野さんワークショップ講師費：380,000円

工具費：300,000円

材料費（EBチューブ含む）：250,000円

宿泊費／食費／雑費：150,000円

計：1,380,000円

支援金の御協力をお願いします。

* 支援／義援金振込口座 NPO法人Agri-Connections

ゆうちょ口座 アグリコネクションズ

ゆうちょ銀行からの振込

<記号番号> 記号 10190 番号 7041481

ゆうちょ以外からの振込

<口座番号> 〇一ハ(ゼロイチハチ)支店

口座番号 0704148

ネパールサポートページ

<http://aozora-marche.com/?p=789>